

はくぶつかんネット

第45号

平成24年度
9月～12月号

宜野湾市立博物館発行

【夏の特別展】

宜野湾 50th ～Ginowan City 50th Anniversary～



体験コーナー

昔懐かしいおもちゃ
9種類で遊びました♪



沖縄海洋博覧会



1973年の国道58号・
330号、普天間周辺の
様子を地図&写真で復元



間切パズルに挑戦

間切とは!?



市誕生のウラ側とその後



復帰後の変化...



今やめづらしい!?
ダイヤル式電話に夢中♪



ぎのわんの歴史を
約12分にギュッと
まとめたビデオ
上映コーナー



ビデオ鑑賞中!!



大山にワイン会社!!
今は無きラッキーワイン!

今年は、宜野湾が市に昇格して50周年を迎え、さらに沖縄県が日本へ復帰して40周年という記念すべき年となりました。そこで、7月25日～8月26日まで「宜野湾 50th～Ginowan City 50th anniversary」と題した特別展を行いました。展示会最終日は台風15号接近に伴って博物館は臨時休館になりましたが、期間中 1,478 名の方が見に来て下さいました。

来館者からは「とても良かったです。地域の歴史をまとめてみせる、公立の地域に根ざした博物館のあるべき姿だと思います。若い人からお年寄りまで楽しめる企画展でした」や「宜野湾市の戦前・戦後の移り変わりが良く分かりました」、「頭の中にも入るし、勉強にもなる(昔にタイムスリップしたい)」などなど、とても嬉しい感想を頂きました。これからも、皆様が展示会を見て勉強になった、面白かった、楽しかったなどと言って頂けるような展示を心掛けていこうと思います。展示会を見学して下さいました皆様、展示協力をして下さった皆様、本当にありがとうございました <m(_)_m>

博物館周辺探訪 ～真志喜・大謝名編～

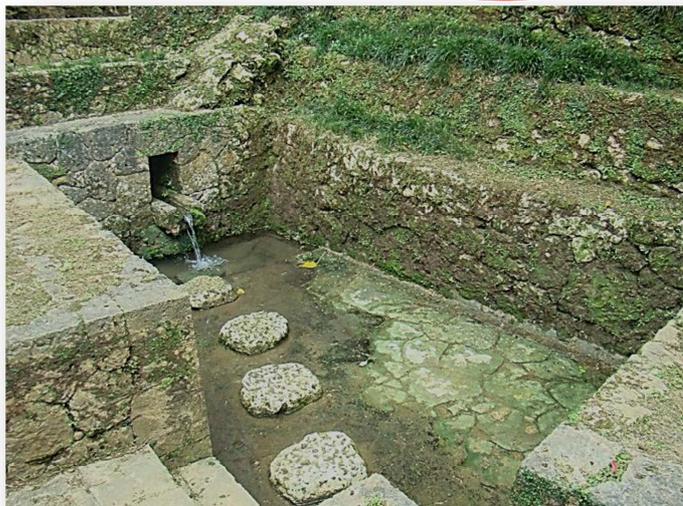
最近、少しずつ秋めいてきました。暑くて外にも出たくない時期が終わろうとしています。そこで、博物館では皆様に秋の日の散歩をおすすめしたいと思います。今回、ご紹介するのは博物館が建っている真志喜とその隣にあります大謝名です☆散策マップを別でつけていますので、ぜひ歩いてみてください！

また、このコーナーで紹介している場所はほんの一部です！参考文献を載せていますので、今回取り上げていない場所を皆様自身で調べて散策してみるのも面白いですよ♪

【真志喜探訪】

① ムイヌカー（森の川）

はごろも伝説で有名な・・・



② 西森御嶽

真志喜の聖なる場所！



③ 西森碑記

ムイヌカーと西森御嶽の改修工事について書かれているよー



☆展示室も見てね☆

宜野湾市立博物館の常設展示室には、映像コーナーで天女伝説やノロの話を流していたり、西森碑記について触れていたりといろいろ展示しています！

散歩前に展示室を見てください♪基礎知識をつけて散歩をすると、普段とは違った散歩が楽しめますよ～♪♪



西森碑記は 1725（雍正3）年に建立された碑文で、真志喜の森川公園内、西森御嶽の石垣の後方岩上に建っています。この碑文は、向^{しょうじ}氏伊江家が西森御嶽と森之川の石積み工事を行ったことが書かれている、いわば完成記念碑です。伊江家による碑の建立については、①伊江家初代の朝義の生母（城^{ぐすく}の大按司志良礼^{おおあじしられ}）が、宜野湾間切謝名村の野国^{のくに}掟^{うち}の娘であること。②伊江家一族は、毎年5月に西森と森の川を拝んでいること。③野国掟が天女伝説の奥間大親の裔^{おくまうぶや}流^{えいりゅう}であるとの伝説があること。の3点が建立目的のポイントとして挙げられます。伊江家は、その当時首里王府内でも政治の実権を握っていた三司官を輩出するなど、有力な家柄でした。さらに、このように碑を建てることで自分たちの出自の正当性を示したのでしょう。

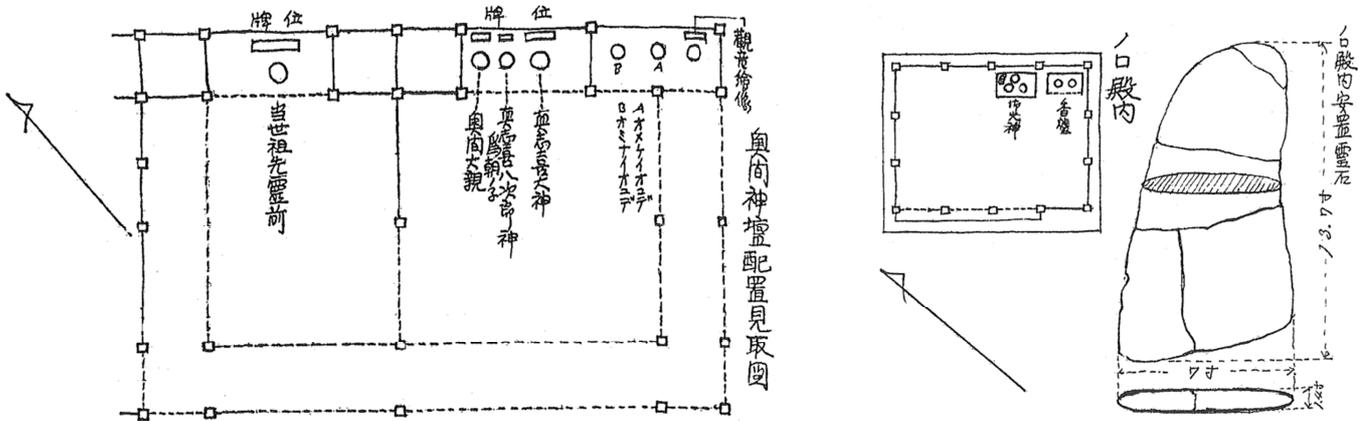
④又ドゥンチ (ノロ殿内)



戦後、又ドゥンチが壊れてしまったため、コンクリートで拝所を作っていました。その後、鎌倉芳太郎 (1898-1983) のスケッチを参考に復元されました。

さて、この鎌倉芳太郎とはどういう人物なのでしょう？
彼は香川県出身で、1921 (大正 10) 年に東京美術学校 (現東京芸大) を卒業とともに沖縄県立女子師範学校および第一高等女学校の教諭として沖縄へ赴任してきました。その後、沖縄への興味を深め専門の染色を中心とした美術工芸はもとより、建築、文学、民俗、芸能、歴史など多岐にわたって調査された方なのです。一人でこんなにたくさんの調査ができるのはすごいですね!!

『鎌倉芳太郎資料集(ノート編)』第2巻 民俗・宗教 2007
沖縄県立芸術大学附属研究所
『沖縄大百科事典』上巻 1983 沖縄タイムス社



図：鎌倉ノートに記された奥間大親家神壇の配置見取図 (左) と真志喜ノロ殿内安置の霊石 (右)

『鎌倉芳太郎資料集(ノート編)』第2巻 民俗・宗教 2007 沖縄県立芸術大学附属研究所より

ノロってどんな人？

間切内の3~5カ所のムラを管轄し、祭祀を司っていた人たちです！宜野湾間切には、3人のノロがいました。



宜野湾間切：ノロの担当地域マップ



Check! 真志喜のろこもい文書

「のろこもい文書」には、謝名ノロの後継者を巡って真志喜と大謝名が争ったという話が載っています。

この古文書によると、もともとノロを継承していたのは大謝名村の野国家でした。しかし、6代目ノロを真志喜村の奥間家に嫁いできた野国家のかま戸という女性が継承しました。その後、ノロは奥間家が継承するようになったのです。ノロ職を奥間家が担うようになると、大謝名村では不幸な出来事ばかり続きました。そこで、ノロをもう一度大謝名村へもどしたいという事で、ノロ継承争いが勃発したのです。結局、大謝名村の言い分はつじつまが合わないという事で、真志喜村の奥間家が継ぐことに決まったのです。詳しくは、博物館に複写版と翻訳版が置いてあるので、じっくり読んでみて下さい♪

『宜野湾市史』第4巻 資料編 宜野湾関係資料 I 1985

宜野湾市史編集委員会

【大謝名探訪】

①ウシアミシガー



現在でも見ることが出来るウシアミシガーは、昔は闘牛・肉牛などをつれていけるカー（湧水）になっていたようです。その他にもウシアミシガーの近くには、クシヌカーとクムイガーという2つのカーがありましたが、今では見られなくなっています。

『ぎのわんの西海岸—土地利用・地名・海（イノー）・自然—』1996 宜野湾市教育委員会



Check! 市指定文化財

②大謝名メーヌカー

カーピラ（泉坂）→



かつて大謝名メーヌカーは生活雑用水の他、子どもの出生のときの湯浴みに使う産水^{ウツミジ}、新年を迎えるときに身を清める若水^{ワカミジ}などを取ったカーでした。水道が敷設された現在は、カーを使用することはなくなりました。しかし、水の恩恵に感謝して、正月、2月、8月の節々にカーウガミ（泉拝み）を今でも行うようです。メーヌカーに下りる石畳道を含めて市指定文化財となっています。

また、メーヌカーには「オオイシソウ」、「タニコケモドキ」という2種類の淡水紅藻^{たんすいこうそう}が生育しています。実は、この藻が珍しいのです。県内でも大謝名メーヌカーを含む限られた場所での確認がとれていません。

『ぎのわんの文化財[第7版]』2007 宜野湾市教育委員会

その他にも

大謝名メーヌカーの近くには、現在は見る事ができなくなりましたが、ヤマトウガーやカーグツがあります。

かつて、ヤマトウガー近くは入江でした。そのため、日本や中国の貿易船が入りして水を確保していた場所だと伝えられています。また、現在カーグツは隣接する大謝名小学校の池や、散水用の水に使われているようです。

『ぎのわんの西海岸—土地利用・地名・海（イノー）・自然—』1996 宜野湾市教育委員会

さらに！！大謝名メヌカーの近くには・・・



メヌカーの近くにはトゥーティークー（土帝君：左）や、ジトゥーヒヌカン（地頭火の神：右）があります。

トゥーティークーは、以前は大謝名団地のあたり（小字名港田原^{ナトツラバ}と呼ばれる低地）にありましたが、港田原を埋め立てた際に公民館敷地内へ移設されました。その後、さらに現在地（別紙地図参照）へと移されました。もとは中国から伝わった農業の神様で、沖縄では豊作・健康・村の繁栄の神様とされており、旧暦2月2日に拝みを行っているようです。

また、ジトゥーヒヌカンはパイプライン沿いにありましたが、道路拡張のためここへ移設されました。

Check! 中山王察度を追え



察度は、天女のこどもだよ！！

③クガニナー（黄金宮）／上之山御嶽



④カンジャーガマ（1996年の発掘時の写真）



「大謝名カンジャーガマ岩陰遺跡 発掘調査記録」1997
宜野湾市教育委員会より

③クガニナー（右）／上之山御嶽（左）

クガニナーは察度王の屋敷跡とされる場所で、現在は拝所となっています。

また、中大謝名バス停（沖商マンション跡地）付近を上之山（イーヌヤマ、別紙地図参照）と言っていました。ここには、村拝みを行う拝所がありました。拝所はクガニナーの隣へ移設されました。

『ぎのわんの西海岸—土地利用・地名・海（イノー）・自然—』1996 宜野湾市教育委員会

④カンジャーガマ

このガマは大謝名公民館の東側と大謝名小学校との間にありました。発掘調査の結果、17世紀ごろの鍛冶場の跡があるという事がわかりました。また言い伝えによれば、察度王が14～15世紀に大和との交易で黄金と鉄を交換し、交易で得た鉄を使って農機具を作り村人に配ったという話がありますが、その農機具を作った場所がカンジャーガマではないかと伝えられています。

『大謝名カンジャーガマ岩陰遺跡の鍛冶関連遺物』1998 宜野湾市教育委員会



沖縄の年中行事について・・・

9月
25
8月10日 大安

カレンダーにのっているこの日付を見たことありますか？
 これは「旧暦」といって、昔使われていた暦です。現在使われている
 暦は「太陽暦(新暦)」といいますが、沖縄のカレンダーのほとんどには、
 今でも旧暦がのっています。

Q なぜ「旧暦」がのっているのでしょうか・・・

A 沖縄ではいまでも
 “年中行事を「旧暦」で行うためです”
 お盆のことを「旧盆」というのは旧暦で行っているためです

おも 主な行事の紹介

せいめいさい 清明祭 (シーミー) 新暦 4月上旬

親族そろって祖先のお墓に行き、重箱などのごちそうをお供えした
 あと、みんなでごちそうを食べます。親族が顔を合わせて、にぎやかな
 雰囲気の中で仲良く交流する大切な行事です。また、直接お墓に向かうことで、
 お墓を大切にすることを、祖先を身近に感じることができる日でもあり
 ます。

※もともと首里の士族の間で行われていた行事であるため、本島では盛んに行われ
 ますが、宮古・八重山ではあまり盛んではなく、むしろ旧暦の1月の「16日祭」
 の方が盛大に行われます。

六月ウマチー 旧暦 6月15日

稲の収穫祭です。稲の収穫を終え、豊作に感謝して綱引きを行う地域も
 あります。戦前の宜野湾においても、14の字で綱引きは行われていまし
 た※1。

現在でも、大山・真志喜・宜野湾※2が行っています。真剣勝負で巨大な
 綱を引く姿は、とても迫力があります。時代の変化により、行事の意味あ
 いも、豊作祝いというより、地域の親睦を深める交流の意味も込められて
 きました。

※1 地域によっては旧暦 6月 25日の六月カシナー（収穫の報告として新米のおこわをお供え
 する行事）に行う。
 ※2 宜野湾は5年に1回



1 (左から) 大山・真志喜・宜野湾

みなさんは、「シーミー」「お盆」と言った普段何気なく行っている年中行事の
 意味について知っていますか？ ひとつひとつの行事には、きちんとした意味が
 あります。今回は、年中行事について簡単に紹介しますので、意味を学ぶこと
 で、今後より深く行事に参加してもらえたらと思います。

旧暦 月、日によって満月や三日月などに形を
 変えますが、満月から次の満月までは約1か
 月と決まっています。旧暦はその月の満ち
 欠けをもとに作られています。

新暦 太陽は1年を通して地球を一周
 します。新暦はその周期をもとに
 して作られています。

新暦日のおよそ20~30日
 あとに旧暦日をおかえるんだケロ

■生活と結びついた行事

年中行事の多くは、沖縄が農業を中心に生活していた
 頃に誕生しました。農業は、種まきや収穫を自然の変化
 を観察して行います。また、時には台風や日照りなどの
 影響を受けることもあります。自然と深く関わる生活をして
 いた人びとにとって、豊作を願い神に祈ることは、重要な
 意味をもっていました。祈りごとは定期的に行われるよう
 になり、年中行事として人びとに広がって
 きました。

一方で、家内安全や子孫繁栄などの
 家族単位の願いも、年中行事に組み
 込まれていきます。

このように、年中行事には、人々が幸せを求め、豊かになろう
 とする願いや、厳しい生活の中に訪れる自然の恵みへの感謝と
 いった強い想いが込められています。

時代の変化によって、以前のように村ごとの行事を行うことは
 難しくなっていますが、家庭に密着した行事(シーミーや
 お盆)は今でも、人びとの生活に根づいています。

みなさんも行事を行う際は、年中行事が誕生した背景を思い
 出し、自然や祖先、家族に恵まれた日々感謝してみたいか
 がでしょうか？

お盆 旧暦 7月13~15日※1

祖先の霊を家にお迎えして、子孫ら家族と共に過ごすという、祖先
 供養の行事です。13日の「ウンケー(迎えの日)」には、仏壇にお
 花やお供えものを準備し、夕方お迎えをします。最終日の15日を
 「ウークイ(送りの日)」と言います。この日はお盆で一番大切な日
 で、親戚一同が夜遅くまで集まり、にぎやかに過ごします。ウークイ
 が近づくと全員が仏壇の前に集まり、また来年も来てくださいと感謝
 の気持ちを込めて、祖先を送り出します。お盆の期間には、お中元を
 もって親戚を訪ねたり、エイサーや獅子舞などの伝統芸能が行われる
 など祖先の霊を慰めます。



1 (左から) 伊佐・普天間

ようこそ 博物館へ



職場体験・学芸員実習・インターンシップ

今年度も、たくさんの学生さんが博物館の仕事を体験しました。

まずは、6月に職場体験で真志喜中学校と嘉数中学校の生徒さん5人が訪れました。初日は職場の雰囲気緊張した様子でしたが、博物館見学や文化財巡りなど様々な体験するうちに、緊張も解けたようでした。最後の調べ学習の発表では、みんなしっかりと説明をしてくれました。8月に訪れたのは、琉球大学と沖縄国際大学の学生さん3名。学芸員実習のため12日間実習を行いました。今回は野外に出る機会が多く、市民講座やわらば〜体験じゅくでのタイモの植え付け、宿泊学習下見の山登り・・・実習生は予想以上に体力を使うことに驚いた様子でした。また学芸員に必要な調査研究として、調べ学習から解説までを行う課題も限られた時間の中、頑張っていました！

同月には、沖縄国際大学からインターンシップの学生さん3名が訪れていました。博物館での研修は2日間でしたが、博物館の業務内容を学んだり来館者への直接対応など、様々な経験をしていました。

皆さん本当にお疲れ様でした。



◆インターン生 ◆職場体験（展示解説）
◆実習生（展示解説・山登り・タイモ植え付け）

知念 勇前館長、顕彰者に選ばれました！！

今年5月24日に沖縄市で行われた、沖縄県博物館協会の春の研修会にて、当館の前館長の知念勇氏が長年の功績が湛えられ顕彰者に選ばれました。

知念氏は、県立・恩納村・宜野湾市で博物館職員を22年間務めたほか、沖縄国際大学の非常勤講師として、学芸員資格の科目を担当するなど、後輩育成にも励んでくださいました。当館在籍の3年間においては、開館10周年特別展の実施や、博物館友の会の発足など、多くの事業に力を入れてくださいました。

職員一同とても喜んでおります。知念前館長おめでとうございました！！

今後のご活躍を期待しております。



◆知念前館長と当館職員で記念撮影

■開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）

*文化の日、慰霊の日（6月23日）は開館

※火曜日と祝日が重なった場合、翌日の水曜日にも休館、その他くん蒸による臨時休館あり

宜野湾市立博物館

ホームページ

宜野湾市立博物館



〒901-2224

宜野湾市真志喜1-25-1

TEL(098)870-9317 FAX(098)870-9316

